

家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについての基礎的な理解と、それらに係る技能	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・どの分野においても自分の家庭のスタイルが当たり前と感じている部分がある。ア ・これから先の自分の生活は、今の生活から変化していくものであり、自分で作っていくという認識がまだもてていない。イ	・分野ごとにクラスや班で他の人の話を聞く機会を作り、今の生活の仕方は、いろいろなスタイルがあるうちの一つであると理解していく。プライバシーには配慮する。ア ・少し先の未来を想像する機会を設ける。イ	通年	家族・家庭の形や、生活の仕方の多様性を理解できた生徒が多い。想像した少し先の生活は、現実と乖離している生徒がまだ多いが、学習したことを今から取り入れようとする振り返りの記述も見受けられる。
第2学年	・自立に必要なことと捉えて学習しているかで知識の定着に差が見られる。ア ・学習していることを自分の生活と関連付けて考えて問題を見いだせるかに差が見られる。イ	・自分の生活と密着していることを学習していると認識できるように、食品の実物を見せるなどの機会を多く設ける。ア ・学習ごとの振り返りの中で自分ならどうするかを考えさせていく。イ	通年	食生活は与えられるものという認識から、学習を自らの生活に生かしていけるという認識へ変化した様子が振り返りの記述から見受けられる。
第3学年	・家庭や地域に育てられている立場から、今後育てていく立場に変わっていくという認識の持ち具合に差が大きい。ア ・学習している内容を、自分の今後の生活と関連付けて考えられるかの差が大きい。イ	・子供を育てていく立場での知識となるように、常にその視点を意識させる。ア ・学習している内容を自分の過去と関連付けてとらえたのち、今後の生活にはどう生かしていくかの考察をさせる。イ	通年	育てていく立場になっていくと自覚できた生徒が増えたが、小さい頃を懐かしむだけで終わってしまった生徒も少なからずいた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 学習に関連する写真などの資料が手元の端末で拡大して見られるように「ロイロノート」の「資料を送る」などを活用する。【重点:個別】 2年 ロイロノートで作業して、ロイロノートで提出する機会を設ける。【重点:個別】 3年 提出されたものを共有する時間や、アンケート機能で他の人の意見を知る時間を設ける。【重点:協働】	・毎時間「学習の目標」を確認し、学習の終わりにそれに対する「振り返り」をする時間を設ける。 ・単元が終わるごとに、次の単元の予告をし、教科書の目次で確認をする。 ・複数の時間にまたがる実習は、自分で目標と計画を立てるようにし、それに対しての進捗を振り返る時間を毎回設ける。

